

JISA ソフトウェアイノベーションシンポジウム 2024

ーシン・ソフトウェアエンジニアリング

～未来を切り拓く人と技術の新たな挑戦～

開催報告

令和6年12月18日（水）、JJK会館において、技術委員会（委員長：富安寛（株）NTTデータグループ常務執行役）主催のシンポジウムが、会員企業エンジニアを中心に約110名の参加を得て開催された。

午前中のセッションでは、技術委員会エンジニアリング部会が企画・運営をする「戦略的AI活用によるREBOK(DX編)の実践ワークショップ」が開催され【ライトニングトーク】、【ポスターセッション】が行われた。

午後のセッションでは、富安委員長の開会挨拶ではじまった。基調講演1では、鷲崎 弘宜氏（早稲田大学 / 国立情報学研究所 / エクスモーション）より、「コンピューティングおよびソフトウェア工学の潮流: IEEE-CS技術予測&SWEBOK Guideに基づくAI・アジャイル・サステナビリティの展望」、基調講演2では、平本 健二氏（独立行政法人情報処理推進機構（IPA）デジタル基盤センター長）より、「ソフトウェアエンジニアリング推進の新たな方向性」、招待講演では、原嶋 努氏（企業年金ビジネスサービス株式会社 情報システム部長）より、PM Award2024最優秀プロジェクト賞（Large部門）/ 情報サービス産業協会 デジタルトランスフォーメーション 賞の「生保企業年金統合プロジェクト（SOP ～ Seiho Open-Innovation Project）から学んだこと」の講演があった。

その後、経験報告セッションでは、本年度は「シン・ソフトウェアエンジニアリング～未来を切り拓く人と技術の新たな挑戦～」をテーマとして、社会にインパクトを与える問題発見や顧客価値創出、生成AI等最先端技術等を実践、検討している事例を積極的に募集し、10件の発表が行われた。

シンポジウムの最後に表彰・閉会挨拶・情報交換会パーティが開催された。表彰では、経験報告発表の中から、株式会社日立ソリューションズ 谷 寿人氏、共著者：青木 直子氏「要求インスペクションの進化AI支援ツールによるチェックプロセスの最適化」がベストプラクティス賞として表彰された。

なお、本イベントの詳細については JISA 会報 No.157に掲載予定である。

（溝尾）